

箱根の自然の多様性

日本で発見された全植物種の半分以上は箱根で生長しており、これは箱根の自然の驚くべき多様性を示しています。これらの植物のうち約 30 種は、富士山から南東に向けて箱根を越えて相模湾へと続く富士箱根の山岳地帯にのみ見られます。この豊かな植生は主に、この地域の複雑な地形、火山の起源、高い年間降水量によるものです。

箱根のシンボルである芦ノ湖は、その大きさと水流のおかげで冬に凍ることがなく、多様な水中生態系を支えています。湖のほとりには、スギやヒノキの緑豊かな森があり、鹿やイノシシなどの哺乳類が生息しているほか、この地域特有の小さな昆虫もたくさん生息しています。高地での多様性の例としては、秋の半ばに草が銀色に変わる仙石原のススキ畑や、地下マグマで加熱された蒸気やガスが絶えず立ち昇る大涌谷の岩だらけの斜面などがあります。そのマグマは、箱根で最も収益性の高い自然の特徴の原動力でもあり、同地域の数多くの温泉を熱く保っています。